

書 評

Nathan KEYFITZ and Wilhelm FLIEGER SVD,
Population; Facts and Methods of Demography,
W. H. Freeman and Company, San Francisco, 1971
xi + 613 pp.

本書は形式人口学の中心的部分である、生命表、人口推計、安定人口および標準化などに関する数学的モデルを体系的に整理したもので、必要な資料さえあれば、すぐにでも人口増加の分析ができるように、電子計算機のプログラム（使用語は Fortran IV）が例題とともに記載されている。また、本書の方法において統一的分析された結果の要約、それは国別によっては18世紀末から1960年代まで、年次を含めて42項目について整理がなされている Summary Table と1960年代の最新の資料による国、都市および数カ国からなる地域ごとに、性年齢別の分析結果を示した Main Tables を合わせると本書の過半を占める。要するに、本書は電子計算機の利用を前提とした人口分析の方法を整理した教科書である。と同時に、人口に関する諸指標を統一的分析整理された資料集という2つの性格をもっており、それが本書の副題となっている。

全体は5部20章からなっている。第1部は、以下で示される3資料をもとに、人口転換の三段階や、年齢や性による諸指標について整理をおこない、4章“Policy Dilemmas and the Future”で著者らの問題意識が示されている。

第2部は、国別に可能なかぎり年次をさかのぼって、人口推計、年齢構成、人口動態率、生命表および再生産率に関する41項目が資料の年次とともに示されている。たとえば、スウェーデンは1780年から、英仏は19世紀中頃からの資料が補正して示されている。

第3部は、本書の基礎にあたる部分で、形式人口学の中心課題である生命表、人口推計、安定人口および標準化について、補間や補正のプログラムを含めて、12本が例題とともに示されている。これら12本のプログラムは、現在日本でも使用されている計算機によってチェックされたものである。その内容は、生命表作成の LIFE、人口推計の PROJECT と MATRIX、安定人口の LOTKA、ROOT、ZEROS と STABLE、不完全な資料用の INFER、標準化の DIRECT と INDIR、および補正と正規分布へのあてはめの POLATE と GRAD である。多くのプログラムの Input と Output は規格化され、DATA は相互に利用できるようになっている。

第4部の Main Tables は、第1表の男女年齢別の人口、死亡数と出生数にもとづいて、第3部の方法で計算された、生命表以下再生産率までを第2表から第8表に、国、都市、地域別に整理されている。これらは、1960年代の最新の資料にもとづき統一された方法で分析がなされている点が、本書の大きなメリットである。この第4部だけで全体の3分の1以上を占めている。

第5部は、資料の信頼性と出所に関する部分で、日本の資料の信頼性が高いということで、日本ではあまり重要視されていないところである。

全体をとおして、著者らの意図するところは第4章にあると思える。しかし本書であつかわれているところが、経済や政治と切り離された範囲のことであり、今日的な人口問題の解決に直接寄与できない限界があるのはいうまでもない。ただ、これまで複雑だった人口の諸方法が、手軽に利用できるようになったことは評価される必要がある。

(伊藤 達也)